



鳥取県立鳥取盲学校

学校だより

第 2 号

校長 岸田 裕子

令和4年7月22日

第48回中国・四国地区盲学校弁論大会（愛媛大会）

5月10日に毎年恒例の校内弁論大会を行いました。本年度は部科予選を行わず、本選のみでの開催でした。中学部から専攻科生徒まで9名の生徒が参加し、弁論原稿を作り、読み練習を重ねた上で、自分の思いや決意を聴衆に向けて堂々と発表しました。2時間にわたる長時間の弁論大会でしたが、生徒たちは一人一人の弁論にしっかりと耳を傾け、弁士も熱い思いを精一杯に表現しました。大きな大会を思わせるような静粛さの中で皆が一つになった弁論大会でした。生徒たちの感想にも、「来年も是非、みんなの前で発表したい。」「今年のように全員の弁論を同じ場所で聞きたい。」というものが多くありました。

そして、慎重審議の結果、校内弁論大会で最優秀賞に選ばれた普通科1年西本由幸さんが、学校代表として6月10日（金）に松山盲学校で開催された「第48回中国・四国地区盲学校弁論大会」に出場しました。初めての弁論大会で、トップバッターのプレッシャーを背負いながらの緊張は見られましたが、練習の成果を見事に発揮し、奨励賞を受賞しました。他県の生徒の弁論を聞いて、考えたり感じたりすることの多かった有意義な時間になりました。



演題：

「障がいがあっても自分に自信を」

第29回中国・四国地区盲学校体育大会（香川）優勝 全国大会へ！（第6回全国盲学校フロアバレーボール山口大会）

3年ぶりに開催された中国・四国地区盲学校体育大会（香川大会）にフロアバレーボールチームが出場しました。3年前の大会は高知盲学校との連合チームで優勝したのですが、鳥取盲学校の選手は2名だけでした。連覇のかかる今大会も初めは高知盲学校との連合チームでチームを組みましたが、急遽、高知盲学校選手が欠場となったため、鳥取盲学校単独チームでの出場となりました。

今大会には中学部から専攻科まで8名の選手が集まり、大会に向けて体育や放課後に練習を重ねてきました。始めは練習相手の教職員チームに苦戦していましたが、練習の締めくくりの球技大会では、教職員チームに勝利しチーム力が高まって本番を迎えました。

7月10日（日）の香川県での試合は全国大会出場を目指す広島中央特別支援学校と岡山盲学校と本校の3チームでリーグ戦を行いました。鳥取盲学校チームは、第1試合で広島中

央特別支援学校と対戦し、ストレートで勝利しました。その10分後には第2試合で岡山盲学校と対戦しました。岡山盲学校の試合は第2セットがデュースになるほどの接戦でしたが、選手がしっかり声を出し、お互いをサポートすることでミスを減らし、粘り強く戦って勝利をもぎ取ることができました。その結果、3チームのリーグ戦を制したことで、2回目の全国大会出場が決まりました。

午後からは、中四国大会の優勝をかけて下関南総合支援学校と対戦し、30分間限定の試合という中で集中力を切らさずにプレーをして勝利し、中国・四国地区盲学校体育大会（フロアーバレーボールの部）を連覇することができました。

この大会に向けた練習の日々やチームとしてまとまっていく過程、本番の緊張感の中でのプレーは選手たちを大きく成長させたと思います。全国大会は8月末に山口県で開催されます。中国四国地区代表チームとして恥ずかしくないプレーやマナーの良い態度となるよう、しっかりと練習に取り組み、まずは全国大会1勝を目指して頑張っていきたいと思います。選手の活躍を御期待ください。



【開会式会場での選手たち】



【大会（試合）の様子】

【参観日】

4月29日の学習参観日・PTA 総会には、保護者の皆様においでいただきありがとうございました。本年度のPTA 役員が決定し、盲学校PTA 連合会の会議、県特別支援学校PTA 連合会の会議等リモートですが順調に行われています。お子様が学校で頑張っておられる姿を、4月参観日、6月参観ウィークでご覧いただいたと思います。10月には文化祭、参観日、参観ウィークを予定しています。学校では現在、文化祭に向けて生徒のプロジェクトチームが活動を始めました。ぜひご参観ください。鳥取県立特別支援学校4校合同作品展が仁風閣2Fで7/2（土）～8/28（日）9:00～17:00【閉館日：月曜日、7/19（火）、8/16（火）】開催されています。本校の児童生徒3人の陶芸作品16点が展示されています。ぜひ、ご鑑賞ください。

研究の取組

本年度は部科研究3年目として、各グループで成果と課題を整理し取り組んでいます。

小中学部では「児童生徒が主体的に学ぶ力をつけるための授業づくり～言語活動の充実に向けて」をテーマに、普通科では卒業後の豊かな生活を実現するための力を育成する授業づくりを目標として、保理専攻科では3つの観点の資質・能力（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）について、寄宿舍では2グループに分かれ、①充実した社会生活をおくる技術の獲得を目指して②寄宿舍生活における生活支援マニュアル指針の作成の研究を継続して進めています。1学期末に各グループの研究の経過を発表し合い、全教職員で共通理解を図りました。